白秋全集

22

白秋全集22　第二〇回配本（第I期 一～二四巻）

一九八六年七月七日　発行

定価三七〇〇円

著者　北原白秋

発行者　緑川亨

発行所　〒101 東京都千代田区一ツ橋二-五-五
株式会社 岩波書店
電話 〇三(二六五)四一一一
振替 東京六-二六〇四〇

落丁本・乱丁本はお取替いたします

© 北原隆太郎 1986　Printed in Japan

ISBN 4-00-090962-2

目次

『きよろろ鶯』

はしがき……七
春の枯野……九
遷宮奉拝記……一〇
あはれ熊祭……一三
湯岡子の墓……一七
春の枯野……二五
哈爾賓小話……四六
カナリヤの胃袋(四六)　破れた手風琴(五〇)
満洲随感……五六
剝製の栗鼠……六五

谷中の秋……六六
本　格(六六)　白秋の墓(七〇)
書斎と星(六八)　庭を眺めて(七四)
白く耀くもの……七八
白きものの陰影……八一
ほうやりとして(八一)　父の髯(八四)
白い満月(八三)
緑ケ丘風景……八五
窓から……九三
緑ケ丘の秋……九五
剝製の栗鼠……一〇三
緑ケ丘にて……一〇八
新居より……一一一
小田原への消息……一一五
人間群落の中に……一一九
牧水逝く……一二四
ほう、ぽん〳〵……一三六
機上から……一四一

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

ある日の日記……一四四
孅くして長久なるもの……一四六
筆を惜む……一四九
陽春逆年譜……一五三
季節の嘘……一六三
I……一六四
一月の言葉(一月)(一六四)
ある思出(二月)(一六五)
金と緑(三月)(一六六)
四月の順礼(四月)(一六七)
水路の五月(五月)(一六八)
びいでびいで(六月)(一六九)
七月の飛行機(七月)(一七〇)
蛍の塔(八月)(一七二)
五浦の少女(九月)(一七三)
十月の廃園(十月)(一七四)
十一月の雀の子(十一月)(一七六)
十二月の言葉(十二月)(一七七)
II……一七九
BAN-BANの春(一七九)
BAN-BANの唄(訳)(一八一)
BAN-BANの夏(一八二)
BAN-BANの秋(一八五)
椿の少女(一八九)
III……一九三
昆虫図譜(一九三)
白い炎の指さき(一九四)

水郷柳河（一九四）　武蔵野通信（一九六）
十月の言葉（一九五）

IV　……一九八

母の横顔（一九八）　最初の師（二〇七）
この母を持つ幸福（二〇三）

きよろろ鶯　……二一三

蝦蟇を釣る　……二一四

食用蛙（二一四）　すつぽん（二一八）
狸の睾丸（二一四）　金魚と緋鯉（二二〇）
狸　爺（二一五）　養老の熊ん蜂（二二〇）
角無き鹿（二一六）　卵と角笛（二二二）
猫は女性（二一七）　カナリヤ孵る（二二四）
蝦蟇と藪莨蕩（二一七）

雪原に遊ぶ　……二二七
若葉は咲く　……二三五
大江の幸若　……二四四
きよろろ鶯　……二四九
仏法僧（二四九）　未知の世界（二五一）

兵さん（二五三）
鳥の巣を探る（二五五）
萠えさかる若葉……二六四
日本の花……二六六
蜆いろの藤……二七五
巻末に……二八一

〔『旅窓読本』より〕

大川風景……二九四
吾妻橋まで（二九四）
永代橋まで（三〇二）
両国橋まで（二九八）
お台場まで（三〇九）
白帝城……三二
日本ライン……三三三
笠松まで……三四八
恵那峡……三六二
柳河へ柳河へ……三七〇
虹の上の航空路……三九一

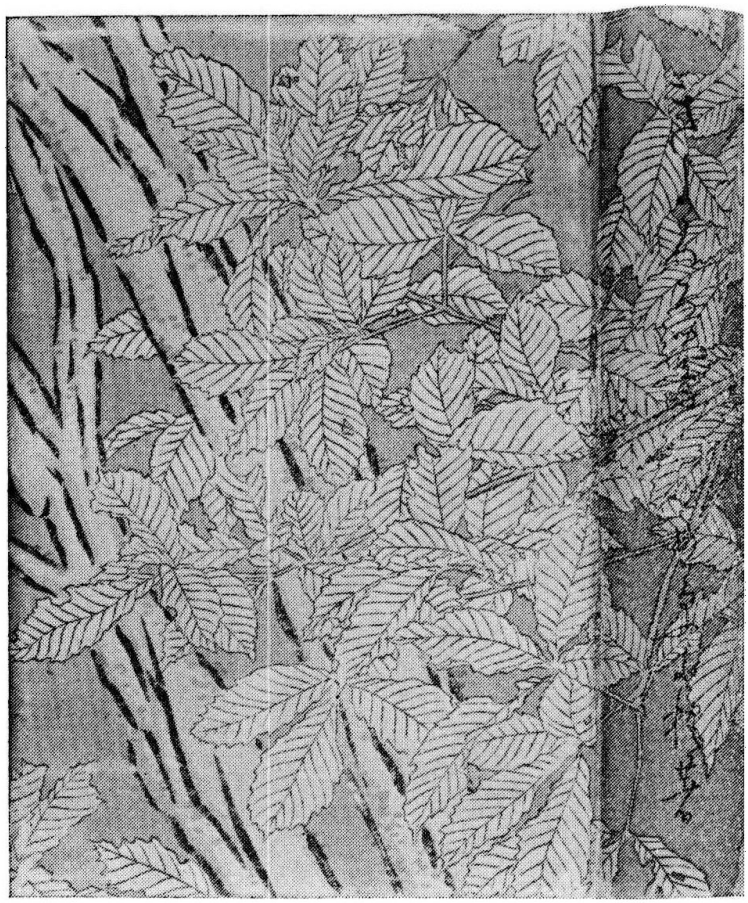
巻末に……四〇六

〔『雲と時計』より〕

華麗島第一印象……四一七
城隍祭……四二一
台北白日素描　第一日……四三一
郷愁（詩）（四三五）
台北夜情　第一夜……四三七
台南旅情（詩）（四五七）
身は香雲のごとく……四六〇
あとの便り（歌）（四六七）

後記……四六九

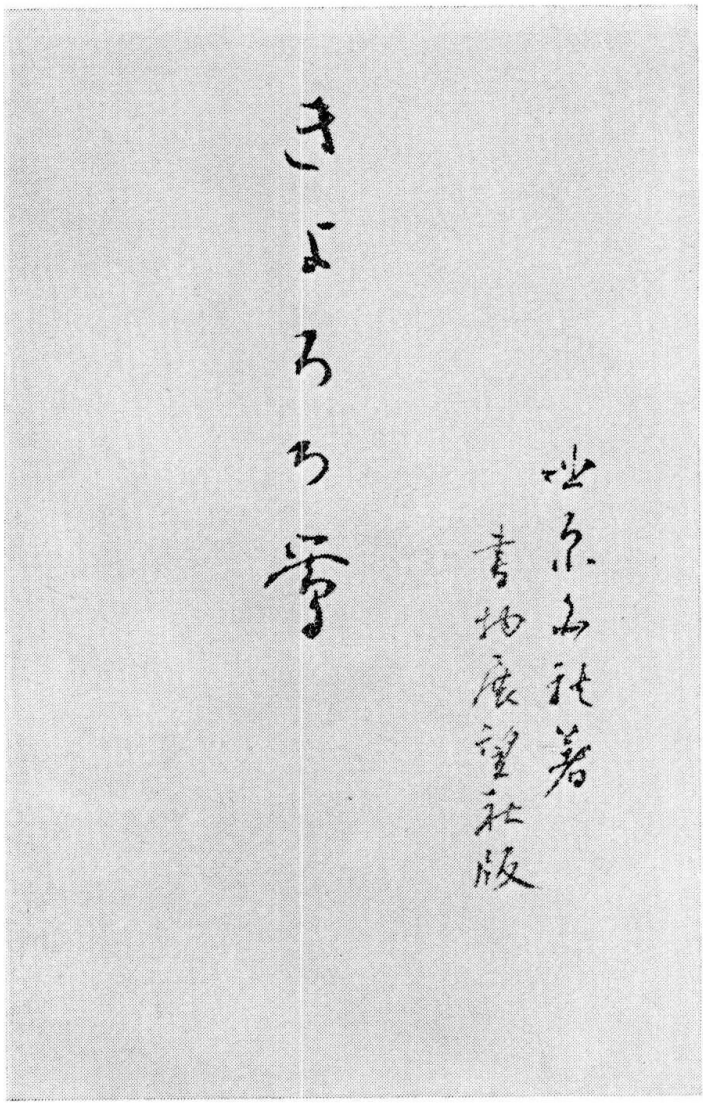
『きよろろ鶯』



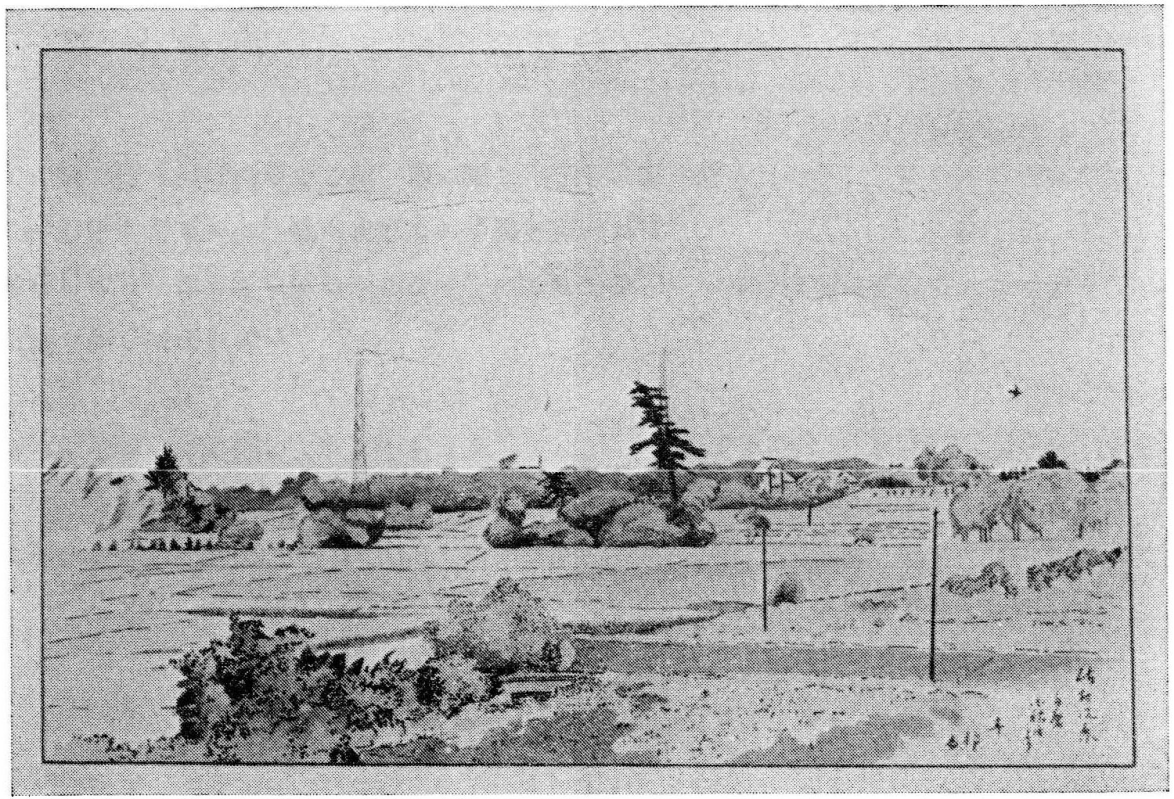
〔表紙〕

〔昭和10年7月28日　書物展望社刊〕

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com



〔本扉〕



〔折込口絵〕

はしがき

きよろろ鶯は謂ふところのほけ鶯、春も闌け、山の若葉も閑かになつて、声のみが孟夏の霞に名残を惜む。さうした惜春の賦とも、影をあはれとも観てゐようか。

春邦画伯のゑがく楢の林の葉がくれにも、その声は姿とくぐる。石走る水のかゝりも匂ふ。

心耳に歎く空の気色である。

きよろろ鶯ころろ蛙といづれぞや

昭和十年六月

多磨の白秋居にて

著　者

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com